

草庵集（頓阿）

草庵和歌集卷第三

和歌所三首に、蛩

夏引の手びきの糸のををよわみ

みだるるたまととぶほたるかな

江蛩

いせのうみのをのふるえに飛ぶ蛩

あまもひろはぬ玉かとぞみる

出羽守貞頼歌よみ侍りしに、おなじ心を

とぶ蛩空にひかりのみだれずは

ほりえにしげる玉とみてまし

河辺蛩

あすか川かよふ蛩はたをやめの

かざしにさせる玉かとぞみる

民部卿家にて、沢蛩

ほたるとぶあさ沢水のあさしとも

みえぬはおのがおもひなりけり

弾正尹親王家五十首に

とぶ蛩我が身はかげとなるまでに

なにゆゑもゆる思ひなるらん

御子左大納言家月次三首、窓前蛩

草ふかき宿にみだるる蛩かな

あつむるまどと人やみるらん

草間螢

秋ちかきこれや螢の思ひ草

葉ずゑの露にかげぞみだるる

陸奥守顯氏題をさぐりて歌合し侍りし時、水辺螢

水の面にもゆる沢辺のほたるかな

なににけつべき思ひなるらん

おなじじころを

いはし水いはぬ思ひはつつめども

こがくれはてずとぶほたるかな

入道前太政大臣家三首に、螢

飛ぶほたるもえてかくれぬ思ひとは

しらでせさのみねを忍ぶらん

夏歌中に

思ひにはまよふならひをとぶ蛩

ひかりやおのがしるべなるらん

とぶ蛩おもひのみこそしるべとや

くらきよはにももえてゆくらん

飛ぶほたるもえこそわたれはしだての

くらはし川のくらき波まに

等持院贈左大臣家にて、水辺蛩

とぶほたるもえてぞみする山川の

波うつ岩の中のおもひを

野蛩を

宮城のの木のしたやみに飛ぶ蛩

露にまさりてかげぞみだるる

聖護院入道親王家にて、同じ心を

草ふかみみえぬ野沢の埋水

ありとやここにとぶほたるかな

持等院贈左大臣家三首に、蛩

萍のしげる沢辺の汀より

さそふ風あればゆくほたるかな

聖護院五十首に、沢蛩

思ひのみほにあらわれて秋をまつ

山田のさはにとぶほたるかな